

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【II III IV V】
2 実施対象者	学校名 一宮町立東浪見小学校 対象学年 全校 人数 134名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 体育・総合 ) ② 行事名 ( サーフィン体験 ) ③ その他 ( なかよし集会・なかよしタイム ) ※特別支援学校との交流 (2) 地域における活動 ① イベント名 ( 上総国一宮祭り：東浪見甚句 ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの持つ特性や楽しさを体得することはもちろんのこと、優しい気持ちを持ち、ボランティア精神にあふれる児童の育成、また、障がい者に対する理解を深め、思いやりをもって接する優しい心をもった児童の育成を目的とする。
5 取組内容	(1)サーフィン体験 2020年東京オリンピックサーフィン大会会場である釣ヶ崎海岸が学区内にあり、プール開き式の一環としてサーフィン体験を行った。地元のプロサーファー及びショップの方々の協力のもと、全校児童一人一人が体験し、とても楽しそうに活動していた。  (2)なかよし集会・なかよしタイム 学区内にある長生特別支援学校との交流及び共同学習。なかよし集会は本校4・5年生(53名)が特別支援学校に行き、児童と合唱やゲーム・ダンスをすることにより障害のある児童への理解を深め、優しく思いやりのある児童を育てることを目的として行った。また、なかよしタイムは特別支援学校の児童を本校に招き5日間、業間の時間を使い一緒に遊ぶことで好ましい人間関係を形成し相互理解・親睦を深めることを目的に行った。

	<p><b>(3)東浪見甚句</b>          当地に古くから伝わる民謡の一つで、特に大漁のときなど、祝いの席では、よく披露されたといわれている東浪見甚句。学校では「日本の文化や地域を愛する心を育てる」という観点から「上総国一宮祭り」に参加し、全校児童による「東浪見甚句」、選抜児童による一輪車演技を披露している。</p> <p>また、一宮町フラッグツアーにも5・6年生が参加し、オープニングで東浪見甚句を披露した。</p> <p><b>(4)講演「グローバルマナーとおもてなし」</b>          筑波大学客員教授である江上いずみ先生を招聘し、一時、流行語大賞ともなった「お・も・て・な・し」。滝川クリステルさんで一躍有名になったが、日本人の持つ「おもてなしの心」。そのおもてなしの心を表すために「表情・態度・身だしなみ・言葉遣い・挨拶」の5つのキーワードが大切であると言うことを実践例を上げ、児童に活動する場面も取り入れながら楽しく講演をしていただいた。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>オリンピック・パラリンピックを通して見えてくるコミュニケーション能力や他者を尊重する態度、そしておもてなしの心。児童は一つ一つの行事を体験することで、ものの考え方や行動そして思いやりの心をもって接することの大切さが身に付いたように感じる。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p><b>(1)なかよしタイム</b>          短い時間の中で特別支援学校の子ども達とどのように接し、何を一緒に活動するのか、子ども達と一緒に考えお互いに楽しめる内容を工夫することが大変であった。</p> <p><b>(2)東浪見甚句</b>          初めて踊る1年生もおり、6月から10月まで東浪見甚句・太鼓のお師匠さんを4回招聘し全校で取り組み、東浪見小として東浪見甚句の大切さや達成感、郷土愛を育てること。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>講師を招聘するにあたり、スポーツ体験型の活用は人気がありなかなか予約までいかない。逆に、日程を出していただけると学校としても調整が付きやすいと感じた。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>地域参加型は継続し行う。また、来年度はスポーツデモンストレーションを行い、子ども達にオリンピック・パラリンピックをもっと身近なものとして体験させたいと考える。</p>

